

2021年度の中小企業診断士試験を受験された人は、2次筆記試験が終わって一息ついている頃かもしれない。ただし、2次試験に合格しただけでは、中小企業診断士と名乗ることはできない。2次試験に合格した日から3年以内に15日間以上の実務経験を積んだうえで中小企業庁に登録申請をし、その申請内容が的確であると認められてはじめて、中小企業診断士として登録される。登録される前に実務経験を積む方法としては、実務補習と実務従事の2種類がある。どちらを選べばよいのか迷う人が多いのではないだろうか。そこで本章では、直近3年以内に登録した中小企業診断士77名への調査結果をもとに、実務補習、実務従事、各々の特徴を紹介したい。

## 1 登録への道筋

### (1) 実務経験の積み方は3通り

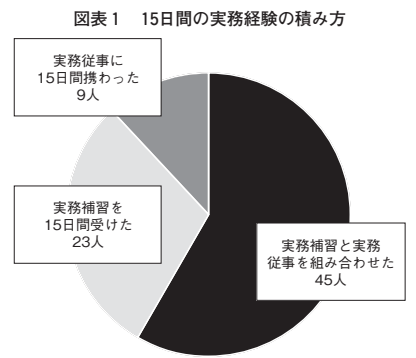
中小企業診断士として登録するために必要な実務経験の積み方には、以下の3通りがある。自らの志向やライフスタイルなどに合わせて選択できる。

- ①実務補習を15日間、受講する
- ②実務従事に15日間以上、携わる
- ③実務補習と実務従事、合計15日間以上携わる

このうち、実務補習は1回につき5日間のコースであらかじめ日程が設定されており、5日間コースを3回連続で受ける方法(15日間コース)と、時期をずらして3回受ける方法の2通りがある。

### (2) 15日間の実務経験の積み方

今回、調査対象とした中小企業診断士77名(2019~2021年度登録)の中では、実務補習と実務従事の両方を受けた人が最も多かった。



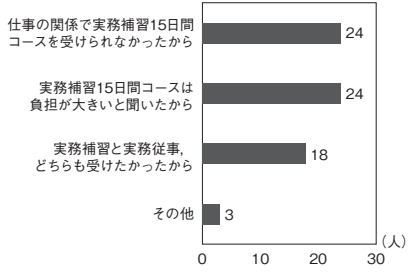
### ①実務補習と実務従事を組み合わせた理由

実務補習と実務従事を組み合わせた人は、民間企業や行政機関など勤務先の仕事の都合で実務補

習15日間コースが受講できないという理由をあげる人が多かった。

また、実務補習15日間コースは約2ヵ月間で3社の総合経営診断を実施するので負荷が高いと聞いて、実務補習と実務従事を組み合わせた人も、同じくらい多かった。

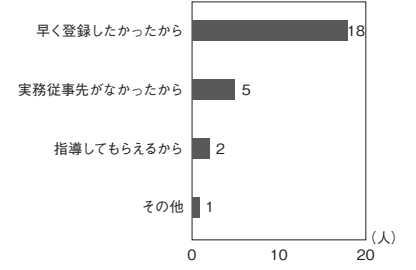
図表2 実務補習と実務従事を組み合わせた理由



### ②実務補習15日間コースを選んだ理由

一方、実務補習15日間コースを選んだ人は、中小企業診断士として早く登録したいという理由で選択した人が多かった。試験に合格した後、1日も早く中小企業診断士として登録したい場合、実務補習15日間コースの受講が選択肢に入る。

図表3 実務補習15日間コースを選んだ理由



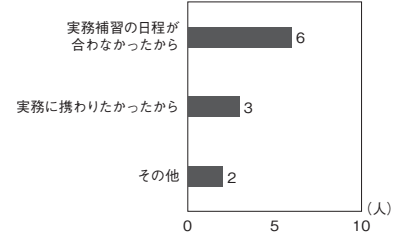
### ③実務従事15日間コースを選んだ理由

今回の調査では人数が少なかったものの、実務従事に15日間携わることで登録要件を満たした人もいる。実務に携わりたかったという理由で選

択した人もいるが、実務補習の日程が合わなかったことを理由に挙げる人が多かった。

実務補習は特定の時期にしか実施されないため、スケジュールが合わない場合には、実務従事15日間コースを選択せざるを得なくなる。

図表4 実務従事15日間コースを選んだ理由



## 2 実務補習・実務従事について

### (1) 実務補習について

#### ①実務補習の申込

実務補習は例年、2月、7月、8月、9月に開催される。なお、15日間コースは2月のみ選択できる。

一般社団法人中小企業診断協会(以下、協会)のホームページに日程や申込方法が掲載される。東京や大阪など人口が多い地域は、申込開始後すぐに定員に達してしまうので、何月何日の何時から申込ができるのか、事前にしっかり確認しておくことをお勧めする。

また、実務補習5日間の日程には平日が含まれているため、勤務先での仕事がある場合は、事前調整が必要になる。受講料は、1回につき55,000円である(令和3年9月時点)。

#### ②実務補習の事前準備

実務補習が始まる前に準備しておくことはあるか、気になる人が多いだろう。実務補習の経験者からのアドバイスは、大きく2点ある。

1点目は、事前資料の読み込みである。実務補